



LIXIL

NEWSLETTER
つくる、つなぐ、とどける

リクシルをつくる人 vol.5

株式会社LIXILは、世界中の誰もが願う、豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。

このニュースレターでは、LIXILの高品質な製品の礎となる日本のものづくりに焦点をあてその取り組みをご紹介します。

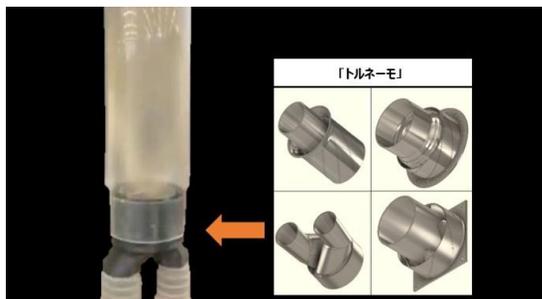
発行日：2025年1月30日

技術

木工加工における切粉の集塵技術を極める
インテリアを製造する須賀川工場(福島県)の事例を紹介

須賀川工場では、木工加工の際に発生する切粉(木粉)飛散が品質や稼働に影響を及ぼすため長年集塵技術の研究を重ねてきた。一般的に切粉の飛散対策として、集塵に必要な風量からダクト径・長さ・能力などを計算して集塵設備を導入するが、この場合、ダクトに付ける異形継手管においては管内での圧力が損失して切粉だまりが発生し、定期的に取り除かなければ吸い込み能力の低下が発生する。この圧力損失を最適化するために、切粉と空気を取り込める2層構造の異形継手管「トルネーモ」を自社開発した。ダクトの中では切粉が竜巻のような渦をまき上げ、切粉だまりの発生を防ぐことができる。(現在特許出願中)

「トルネーモ」は生産現場の従業員が考案したアイデアで、3Dプリンターを使い試行錯誤して約2年で実用化に至った。LIXILには改善を思考するモノづくりの考え方やデジタルツールを使いこなす強みがある。切粉飛散の問題は他の木工加工業者でも起きているため「トルネーモ」の商品化を検討している。



【動画】
トルネーモ
稼働映像

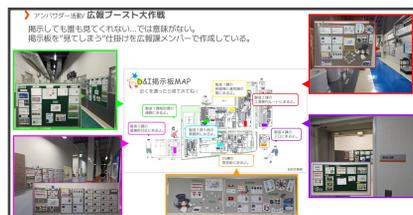


工場見学では集塵技術の実演を行い高品質な製造環境を証明

D&I

「個性を溶かし、職場が色づき、衛陶を照らす」工場づくりを目指す
トイレを製造する榎戸工場(愛知県)の事例を紹介

榎戸工場では、一人ひとりが個性を発揮し、混ざりあうことで良いものを作り出すことを目指し「TOKERU」とスローガンを掲げ、D&Iを実施している。全員参加型の活動では、部署毎に内容を決めて取り組んでいる。その中の一例では、業務上では関わらない部署間でのインターンシップを実施するなど、部署の垣根を超えた取り組みもある。また、アンバサダーが主体となって取り組んでいる活動では、榎戸工場から他拠点へ異動した人に対するインタビューを実施し、異動先での業務や榎戸工場の良さを週2回工場メンバーへ発信している。他にも、周囲が知らない個性を発揮した時に贈られる「アンコンジャスバイアス賞」を設定。例えば、榎戸工場のキャラクター募集の際に5つのイラストを提案した従業員など普段からは想像もつかない一面を見せてくれた際に表彰している。このような取り組みを通し、榎戸工場では多くの会話が生まれコミュニケーションの活性化とインクルーシブな職場環境づくりに繋がっている。



情報が届きにくい製造課に対しては掲示板を活用して工場全体の動き、各部署の取り組みを伝えている。

安全

安全活動へ取り組み、継続無災害日数 2000日を達成
エクステリアを製造する粕川工場(群馬県)の事例を紹介

粕川工場は、工場全体で安全活動に取り組み、2024年8月20日に連続無災害日数2,000日を達成した。

2021年工場再編により工場規模が大幅拡大。人員と製造ラインが増加しリスクが高まるのを防ぐために安全管理の強化を図ったのがきっかけだ。

"領域拡大と展開スピードアップ"をキーワードに、継続的な潜在リスクの発見と改善対策を行っている。リスク回避の目を養うために若手班長を育成し、全従業員が自職場の危険ポイントを抽出・改善し報告する「安全自主研」を毎月実施。並行して、全員に安全活動を正しく、より深く理解してもらうために、生産担当ライン毎に自職場の安全ではない場所を摘出し、自ら安全対策を行う「安全タイム」を設定。教育・実践を行い、一人一人の安全に対するモチベーションアップとチームとしての一体感が生まれた。

今後もベースとして維持する部分と新たな活動を上手く融合させながら安全活動を活性化し、今後もベースとして維持する部分と新たな活動を上手く融合させながら安全活動を活性化し、工場一丸で安全活動を実践していく。



安全自主研報告報告会
(上)若手班長教育(下)
の様子
工場従業員に配布した無
災害記念プレート



LIXILを支える工場のエキスパート

「現場の笑顔が見たいから」デジタルの力で工場を変える若き挑戦者
LHT 大和工場 企画課 原 裕平さん

「現場で技術を磨き、いずれはLIXILの全工場に還元したい」と語る原は、大和工場企画課でデジタル化を推進する若き才能だ。

2020年に入社し、当初は未経験ながら持ち前のチャレンジ精神でデジタルツールの開発・導入に邁進。現場の意見に真摯に耳を傾け、使いやすさを追求したツールは、現場の作業効率化や負担軽減に大きく貢献し、感謝と信頼を集めている。「自分が作ったもので現場の人が喜んでくれるのが一番うれしい」と語る原は、まさに現場ファーストの精神を体現している。



現在は、工場全体のデジタル化を推進する傍ら、全社を挙げたAI推進プロジェクトのメンバーにも抜擢。工場の生産現場におけるAI活用の可能性を探求している。

「AIの可能性は無限大。将来的には、LIXIL全体の業務革新につなげ、その結果、より良い製品をお客さまにお届けすることで、LIXILに対する満足度向上にも貢献できればと考えています。そのためにも、AI活用を積極的に推進していきたい」と、未来を見据える。

「まずはやってみる、できないとは言わない」をモットーに、日々進化を続けるデジタル技術を駆使し、現場の声を力に変えながら、原は今日も挑戦を続けている。その姿は、LIXILの未来を明るく照らす希望の光だ。



工場の若手メンバーと共にAI活用を推進

◆原さんの紹介は、[こちらの](#)webサイトでも紹介されています。ぜひご覧ください。

参考情報

LIXILは、国内では、北海道から沖縄まで34拠点の工場を展開し、日本中に水まわり製品、建材製品をお届けしています。



●LIXILの生産拠点について

<https://www.lixil.co.jp/corporate/recruit/about/workplace/>

●「つくる、つなぐ、とどける」について

現場の第一線で事業活動を支えている工場や開発・設計担当者や工事やメンテナンスを担う人びと、ショールームをはじめとした日々お客さまと接する際の大切にしている想いなどを紹介しています。<https://www.lixil.co.jp/corporate/brand/employee/>